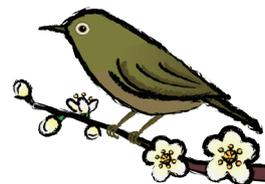


心をよつめる

その七



北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

近頃は毎年のように、そして場所を問わず、大きな自然災害や天変地異が続いております。どこであつても誰であつても絶対に自分だけは大丈夫と断言できる方は、多くはおられないと思います。どんなに丈夫な乗り物や建物の中にいたとしても、台風や地震、津波や洪水に巻き込まれてしまえば、無事かどうか、何が起るかもわからないのです。

大きな自然の力、地球の気まぐれの前で、私達一人一人にできることには何かがあると思いませんか？自然災害だけではなく、人が生きる中で起きる、様々な事件や問題に対しても、あなたに何ができますか？

大きすぎる力を目の前にした時、私達にできることは、ありのままを受け入れることです。諦めることではなく、自分でできる限りのことを精一杯やりつくした上で、こうなれば良いとか、

今を楽しみ 今を生きる

こうなるに違いない等という、私心(わたくしごころ)を判断に加えずに、あくまでも客観的にあるがままを見ることです。後は人知を尽くして天命を待つです。疑わずに未来を信じて、お任せするということです。そして、今を楽しみ、今の状態を楽しみ、後悔せずに生きることで、若さを楽しみ、老いを楽しみ、得難い経験の一つとして、病を楽しみ、質素を楽しみ、最後の瞬間まで笑いながら生きることです。

しばらく前になりますが、私が父の後を継いだ頃に、夜中に冷たくて目を覚ますと、部屋中が雨漏りをしており、その水飛沫がおでこに当たっておりました。雨漏りの箇所にはバケツや洗面器を並べ、雨漏りしていない所に布団を引きずっていき、昭和の頃のテレビド



高野山真言宗 永楽寺 住職
志鶴弘道(しづるこうどう)さん
「小さな小さなお寺です。」



永楽寺
北九州市若松区古前 2-11-6
TEL 093-761-0528

ラマのようだと、何故だか可笑しい笑いがこみ上げてきて、父の「雨露がしめて食べていけたらそれで良い」という言葉が思い出されて、眠った記憶がございませぬ。振り返ればそれもまた良い経験でありました。白アリで床が抜けては床を張り、台風で木が倒れては枝を切り、雨漏りを繰り返す度に屋根に上り、必要に迫られて様々な作業を続けていく中で、少しずつできることが増えていき上手になってくると、修理をすることが次第に楽しくなってきました。

それと共に、昔、ある先生がおっしゃられた「あなたが、これまでに経験し身につけてきたものの中に、無駄になるものは何一つありません。必要がないように見えているものでも、いつか

は使うために、あなたは学び身につけてきたのですよ」という言葉が、心に浮かびました。言われた当時は、心の中で少しいだけ「こういう事で、必要に迫られて仕方なく身につけて上手になつても、あまり嬉しくはないよね」と思ったこともありましたが、ですが、いつのまにか身についていたのでしょね。秋のお彼岸中の台風17号で、屋根のトタンが六枚壊れたのですが、お彼岸が終わってから二日程度で楽しみながら修繕することができたのです。

普通の暮らしを、一生楽しむこと。それが出来たなら、こんなに幸せな生涯はなかったと満足して、心から言葉にできると思いますが、皆様にも健康で笑顔で後悔しない一生を過ごしていただきたいと願っております。

皆様、今を生きていられることに感謝しつつ、楽しんで毎日を暮らしていきたいでしょう。